

各位

会社名 イオン株式会社  
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
 (コード番号8267 東証第一部)  
 問合せ先 秘書室 責任者 高橋 丈晴  
 (電話番号 043-212-6042)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

当社の最近の業績動向を踏まえ、2013年4月11日に公表した2014年2月期(2013年3月1日～2014年2月28日)の連結業績予想を下記の通り修正いたします。

## 記

## 1. 2014年2月期の連結業績予想の修正(2013年3月1日～2014年2月28日)

単位:百万円

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	6,000,000	200,000～ 210,000	215,000～ 225,000	75,000
今回修正予想(B)	6,400,000	170,000	171,000	40,000
増減額(B-A)	400,000	△30,000～ △40,000	△44,000～ △54,000	△35,000
増減率	6.7%	△15.0%～ △19.0%	△20.5%～ △24.0%	△46.7%
前期比増減額	714,697	△20,626	△41,535	△34,511
前期比増減率	12.6%	△10.8%	△19.5%	△46.3%

前期実績(2013年2月期)	5,685,303	190,626	212,535	74,511
----------------	-----------	---------	---------	--------

(注) 2014年2月期期首より、一部の連結子会社においてたな卸資産の評価方法を変更したことにより、前期実績(2013年2月期)の営業利益、経常利益及び当期純利益は遡及修正を行っております。

## 2. 連結業績予想修正の理由

連結営業収益は新規連結企業の貢献もあり当初予想を上回る見込みですが、GMS事業、SM事業の荒利益額が当初計画を下回る見込みであり、連結営業利益、連結経常利益、当期純利益について業績予想を修正いたします。

当期は、大規模な金融緩和や景気対策を背景に円安・株高が進み、一部では個人消費において高額商品への需要の高まりなどが見られました。しかしながら、本年4月に予定される消費税増税に伴う家計負担増加への懸念や、世帯所得の伸び悩みなどを背景に、生活必需品に対する消費については、依然お客さまの節約志向が続いています。

このような厳しい経営環境に加え、天候不順の影響もあり、GMS事業の主要企業であるイオンリテール株式会社の下期の売上高は、衣料品を中心に低調に推移しました。同社では、第4四半期に冬物在庫の早期整理を進め、衣料品部門の収益改善を図るとともに、コスト構造改革の継続及び経費の見直しなど、より一層のコスト削減に努めました。しかしながら、利益構成比の高い第4四半期での売上低迷により、計画と大きく乖離した荒利益額を補うまでには至らず、結果、GMS事業の営業利益は当初予想を下回る見込みです。

SM事業につきましては、お客さまの簡便調理ニーズに対応して、惣菜部門や冷食部門等の売場面積を拡張する既存店活性化を当期末までに全約1,100店舗中、300店舗以上の店舗で実施いたしました。これら活性化実施店舗の既存店売上高は改善傾向にあります。SM業界における厳しい競争は継続しており、事業全体の売上高と荒利益額は当初計画を下回る見込みです。

現在、連結業績改善に向けた取り組みを開始するとともに、新中期経営計画へスムーズに移行する体制の構築を進めています。

以上

\* 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。